

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

静岡県 伊豆市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cc1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	86.38	19.22	63.78	2,728

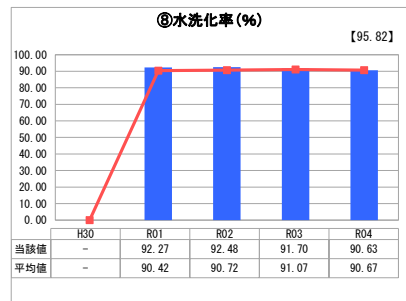
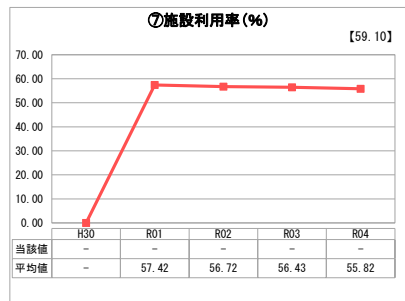
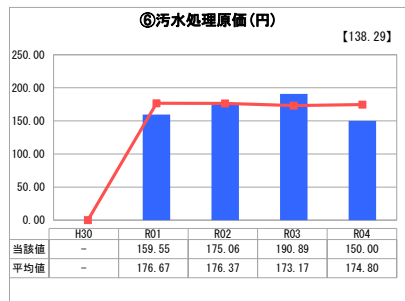
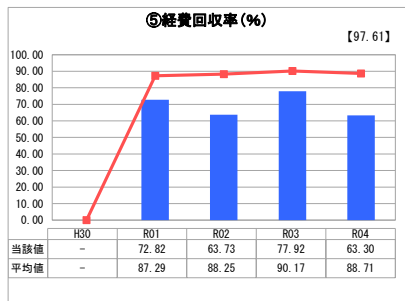
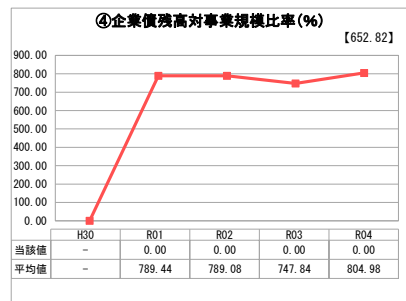
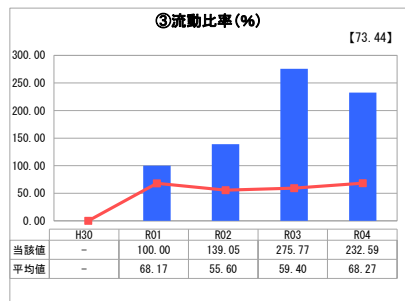
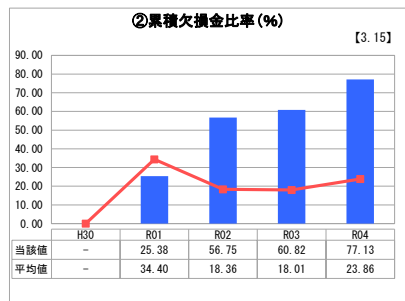
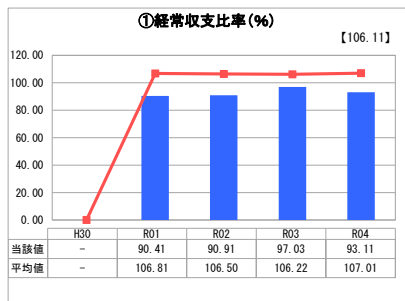
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
28,872	363.97	79.33
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
5,497	1.58	3,479.11

**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

令和元年度より地方公営企業会計へ移行したため、数値は4年度分となっている。

① 経常収支比率は費用に対し、料金収入が少ないため、100%を下回っている。今後の運営について、更なる経営努力を図り、料金収入の確保、費用削減を進めていく。

② 累積欠損金比率は、赤字経営が続いている状況である為、早急に経費の見直しを行い経営改善を図るとともに、経営の健全化が必要となる。

③ 流動比率は、計画的な事業の実施により資金不足に至っていない。

④ 企業債残高対事業規模比率は、一般会計繰入金を反映させたため当該値が0となっている。

⑤ 経費回収率は、類似団体平均値を下回っている状況となっている。使用料のほか一般会計繰入金により賄われており、使用料の確保が喫緊の課題となっている。

⑥ 汚水処理原価は、流域下水道に接続していること、単独の処理場を持たないため、広域の事業費の影響を多く受けている。

⑦ 施設利用率は、流域下水道による広域の処理であり、単独の処理施設を有していないため、空欄。

⑧ 水洗化率は、類似団体平均と比較して僅かながら平均値を下回るため、有収水量の増加を図るためにも接続促進の策が必要となる。

### 2. 老朽化の状況について

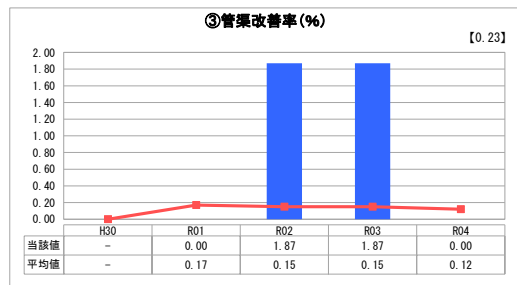
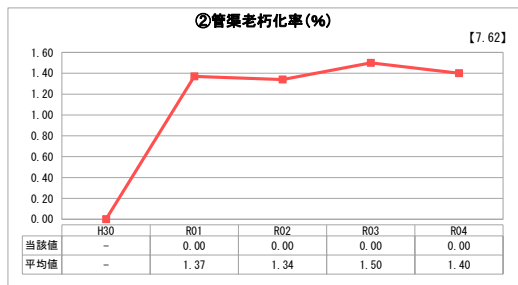
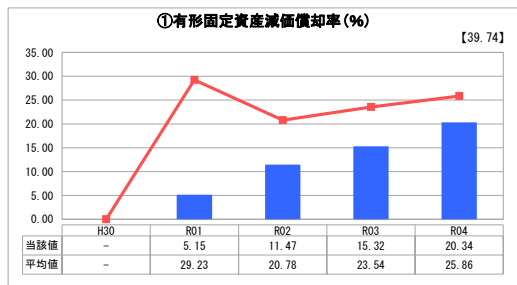
地方公営企業法の適用4年目となる。

① 有形固定資産減価償却率については、減価償却費の累積加算により、今後の数値は減価償却を重ねていくため、上昇していくこととなる。

② 管路の更新については、不具合があればその都度対応している状況である。

最も古い管路は事業開始から50年目を迎える。例年管路のカメラ調査を実施しており、亀裂等の破損が確認された場合は修繕を行っている。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

伊豆市全体として人口は年々減少している。下水道事業においては有収水量の減少が見込まれているため、今後も接続率の向上が必要となる。

経営指標により抽出された、下水道の広域化等による施設利用率の改善、使用料改訂等による収入の増加、水洗化の促進や不明水対策による処理効率の改善に努める。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管路老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。